

1分で読みとくアメリカ

読得
目ミトク

No22

電力も石炭から天然ガスへ。進む米国のエネルギー転換

米国では、電力発電のエネルギー源にもシェールガス（天然ガス）を活用する動きが活発化しています。

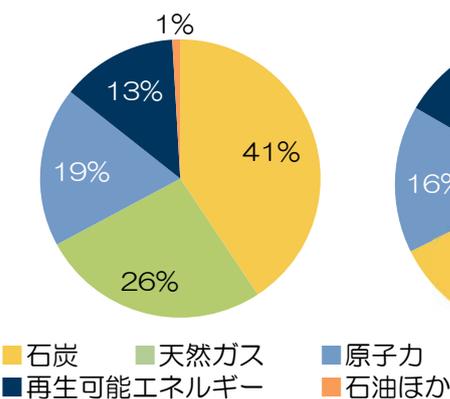
米エネルギー情報局（EIA）によると、2014年の米国の総発電量に占めるエネルギー源別の割合は、石炭が約41%、天然ガスが約26%と見込まれていますが、2035年には天然ガスが石炭を上回ると予測されています。「シェール革命」によりシェールガスの産出量が増加することに加え、米国環境保護局（EPA）が6月に発表した既存発電所に対する二酸化炭素（CO₂）の排出規制案が後押する格好です。特に石炭火力発電所のCO₂排出量は多いため、老朽化した石炭火力発電所を廃止にし、天然ガス発電所を新設していくという動き（“Coal to Gas”（石炭からガスへ）と呼ばれています。）が全米各地で加速しています。電力発電はCO₂排出量において米国最大の産業であり、こうした流れは、温暖化対策にとっても大きな前進となっています。

更に、電力発電におけるエネルギー源の転換は、米国だけではありません。日本そしてアジアなどの新興国でも天然ガスによる発電を増加させる計画が持ち上がっており、世界の天然ガス需要は、今後も成長が期待されています。

米国における発電源のシェア

2014年(予測)

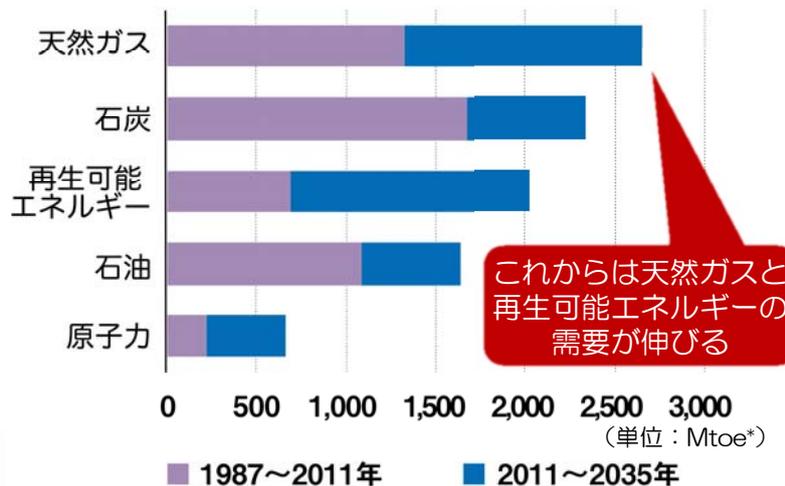
2035年(予測)



石炭と天然ガスのシェアが逆転！

(出所) EIA

世界のエネルギー需要の伸び(予測)



(出所) EIA

*1単位当たり石油100万トンに相当するエネルギーを意味します。

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複製、写真複製、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。
© 2014 Goldman Sachs. All rights reserved. <141444.OTHER.MED.OTU>



Asset Management